

教育・子ども若者常任委員会 県外行政調査

1 調査日 令和7年12月22日（月）～24日（水）

2 調査の概要

12月22日（月）

（1）こども本の森熊本（熊本県熊本市）

こども本の森熊本は、建築家の安藤忠雄氏の「未来を担う子どもたちの豊かな感性や創造力を育むため、更には熊本地震からの復興を応援したい」との思いから設計され、熊本県へ寄贈された図書館である。「こども本の森」は、活字離れが進む子どもたちに、本の楽しさ、豊かさを知ってもらおうと始まったプロジェクトであり、同施設は、大阪府「こども本の森 中之島」、岩手県の「こども本の森 遠野」、兵庫県の「こども本の森 神戸」に続き、全国で4か所目として、令和6年4月に開館した。熊本県立図書館南側に位置し、熊本市の中心部でありながら、豊かな自然環境の中で、子どもたちが自由に読書を楽しむことができる施設となっている。

本県では、「すべての子どもがいつでもどこでも楽しく読書ができる環境づくり」を基本目標とした第5次滋賀県子ども読書活動推進計画（計画期間：令和6年度～10年度）を令和6年3月に策定し、子どもの読書環境を整備する取組が進められていることから、今後の委員会の参考とするため取組内容や施設について調査を行った。



（2）熊本県議会（熊本県熊本市）

熊本県では、平成19年10月策定の「県立高等学校再編整備等基本計画」に基づき、県立高等学校の再編整備等が実施され、当時の61校・8学区から、現在の50校・3学区に至っている。また、令和3年3月の県立高等学校あり方検討会の提言に基づき、県立高等学校で学ぶ全ての高校生が夢に挑戦できる魅力ある学校づくりが進められ、マンガ学科や半導体情報科の設置、国際バカロレアの候補校認定等に結びついている。一方、再編整備等基本計画の策定時より高校進学者が減少する見込みであり、現状でも既に50校のうち約8割の県立高等学校で定員割れしていることから、県立高等学校の現状と課題を踏まえつつ、今後の県立高等学校のあり方および取組の方向性を検討するため、令和6年7月に県

立高等学校あり方検討会を設置した。令和7年9月の提言では、魅力ある学校づくりに向けた取組と募集定員の見直しや課程・学科のあり方の検討等を進めることにより教育環境を整備する必要性が示されたところである。

本県においても、令和4年3月に策定した「これから滋賀の県立高等学校の在り方にに関する基本方針」に基づき、令和5年3月には、全県的視野から各県立高校の魅力化の方針を示す「滋賀の県立高等学校魅力化プラン」を策定し、各県立高校の魅力化の取組を推進しているところである。しかし、少子化の進行や高校授業料無償化の拡大など、高校教育を取り巻く環境は急激に変化し、県立高等学校の在り方について改めて検討していく必要があることから、今後の審議の参考とするため、熊本県における取組を調査した。



12月23日（火）

（3）熊本県立水俣高等学校（熊本県水俣市）

熊本県立水俣高等学校は、平成24年度の開校以来、定員割れが続き、入学者の確保が厳しい状況が続いていたが、令和5年11月に、株式会社アスカインデックス、水俣市、県立水俣高校の3者による「半導体関連人材の育成を通じた水俣市の活性化及び水俣高校の魅力向上に関する連携協定」を締結し、相互に連携・協力しながら、半導体に係る教育活動の展開や人材の育成を図るとともに市の活性化にも資することとした。これらを踏まえ、県立高等学校あり方検討会提言の取組の一つにも掲げられている、地域のニーズに応える学科の設置検討に基づいて、半導体関連学科と建築関連学科が設置されたところである。半導体関連学科は、名称を半導体情報科とし、産学官連携の強化を図り、半導体製造のプロセスを理解するとともに、半導体の知識・技術を学び、半導体が主役である高度情報化社会に対応するべく、情報・データを活用できる力を身につけ、幅広い産業界で活躍できる人材の育成を目指している。

本県においても「滋賀の県立高等学校魅力化プラン」を策定し、令和7年4月に伊香高校森の探究科、守山北高校みらい共創科を開設したところであるが、生徒の興味・関心に応じた学びを提供する学校づくりをさらに進めていくことが求められている。本委員会では、重点審議事項に「魅力ある学校づくりについて」を掲げており、今後の取組の参考とするため、取組内容や施設について調査を行った。



(4) 福岡県立小郡高等学校（福岡県小郡市）

福岡県立小郡高等学校普通科みらい創造コースは、学ぶ意欲があっても、既存の県立高校の体制で学ぶには支障や困難があり、十分な進路選択ができていない不登校の生徒が、きめ細かな支援や生徒の実態に配慮した教育活動により継続して登校し、同年代の生徒同士が同じ空間でお互いの感性や考え方につれてながら、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら課題を解決する力を身につけ、自立して社会で豊かに生きる力を育むことができるよう、福岡県立小郡高等学校に令和7年度新設された、公立高等学校では全国初の学びの多様化学校である。

本県でも、「しがの学びと居場所の保障プラン」を策定し、不登校の状態にある子どもの支援に取り組んでいることから、今後の委員会の参考とするため取組内容や施設について調査を行った。



(5) 福岡市立中央児童会館あいくる（福岡県福岡市）

福岡市立中央児童会館あいくるは、福岡市唯一の児童館であり、「遊び・体験・交流の場」として、子ども達の遊びや活動の場、子育て支援事業、乳幼児の一時預かり、クラブ活動や、季節のイベントや様々な催しものなどを通じて、子ども達の健全な育成を行う施設である。午前9時から午後9時まで開館しており、図書コーナー、飲食・談話コーナー、学習室、多目的ホール、音楽室、小学生までの子供が遊ぶ児童体育室などの設備が充実している。また、児童会館では、中高生が中心となって出演するミニライブや高校生パーソナリティによるラジオなど、乳幼児から高校生まで学び、遊び、体験できる様々な催し物を開催している。

本県では、令和7年3月に策定された「淡海子ども・若者プラン」の基本理念「子ども・若者が笑顔で幸せに暮らせる滋賀」の実現を図るため、子ども・若者政策を推進している。本委員会では、重点審議事項に「子ども・子育て環境の整備について」を掲げており、今後の委員会活動の参考とするため、同施設を訪問し、取組内容や施設について調査を行った。



12月24日（水）

（6）こどもと女性包括支援センターhalu（福岡県大野城市）

こどもと女性包括支援センターhaluは、令和5年4月に社会福祉法人豊生会が開所し、ひとり親家庭の自立を助ける施設としてスタートした。その後、不登校に悩む子どもや生きづらさを抱える若者、予期せぬ妊娠をした女性、子育てに不安を抱える母親、それぞれの支援に特化した部門を併設し、社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネジャー、保育士、心理士、栄養士、助産師ら専門職をそろえている。妊産婦や子育て世帯の支援に加え、子どもの居場所支援の機能を集約し、貧困や不登校など様々な事情を抱える母子をワンストップで支援している。また、福岡県の妊産婦等生活援助事業の委託先でもあり、予期せぬ妊娠や出産後の養育に悩む妊産婦の相談を受け付けている。

本県では、令和7年3月に策定された「淡海子ども・若者プラン」の基本理念「子ども・若者が笑顔で幸せに暮らせる滋賀」の実現を図るため、子ども・若者政策を推進している。本委員会では、重点審議事項に「困難な状況にある子ども・若者の支援について」を掲げており、今後の委員会活動の参考とするため、同施設を訪問し、取組内容や施設について調査を行った。

